

# 鬼太鼓 (おにだいこ／おんでこ)

鬼太鼓は、佐渡各地の神社の祭礼に登場し、その年の豊作や大漁、家内安全を祈りながら、家々の厄をはらうために行われる芸能です。

鬼が家々を回ることを門付けかどづけといい、鬼に厄をはらってもらうために、鬼組にご祝儀(御花)を渡します。

神社の祭礼は、四月十五日頃の春祭り、九月十五日頃の秋祭りに日程が集中し、生業のリズムと深く結びついたものです。

鬼太鼓は祭礼時に奉納する神事芸能にとどまらず、集落の結びつきを生むよりどころの一つとして、住民だけでなく、就職などで島外に出た人々も出身集落の鬼太鼓を様々な形で支えています。

## 鬼太鼓の型

現在、島内のほぼ全域、百をこえる団体がある鬼太鼓。家元がなく、伝承形態は口伝です。団体の数だけ鬼太鼓のスタイルがあるといっても過言ではありません。

集落内で世代から世代へと受け継がれ、また、集落から集落へと伝えられていく中で、個人の癖や見解が影響し、さらに集落の文化、風習、歴史も取り込んで独自の展開をとげたのかもしれない。

多様なスタイルがありながらも、いくつかの型が見いだせると言われています。

ここでは三つの型を紹介します。



### 相川系(豆まき系)鬼太鼓

相川から佐和田・真野湾地域に見られます。素褌姿で烏帽子をかぶった翁が杵を持ち、太鼓に合わせて長い袖を振りながら舞います。



### 国中系鬼太鼓

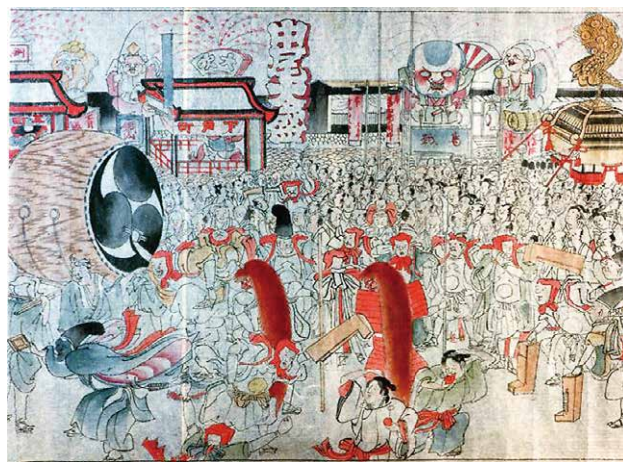
阿吽一對の鬼が交互に舞います。集落によっては獅子が絡みます。島内で最も多く踊られている型です。



### 前浜系鬼太鼓

二匹の鬼が笛と太鼓に合わせて対で踊ります。ローソ※という、いわば「祭りの指揮者」が加わる集落もあり、「御花」をいただいた家で口上を述べます。

※集落によって呼び名が異なる。



佐渡年中行事図(舟崎文庫所蔵)  
杵を持った翁・太鼓・鬼が描かれています。



相川年中行事(天保年間[1830~1844])より

## 鬼太鼓はいつから始まったか 鬼太鼓の相川発生説

『町年寄伊藤氏日記』の安永元年(一七七二)の記事に見られる記述などから、鬼太鼓は江戸時代中頃に、相川の新銀山で働く人たちによって始まったと考える説があります。